

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年8月25日

テーマ1- (1) 「教育の長期的成果の検証、学修成果を把握・評価する仕組みの構築」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)総合企画部長
小野 宏
(総合企画部)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略 (テーマ名)	統轄部署
1 学士課程教育	(1) 教育の長期的成果の検証、学修成果を把握・評価する仕組みの構築	総合企画部
内容		
<p>大学の教育を発展させるためには、その成果を検証して改善に結び付ける PDCA サイクルを持続的に循環させる必要がある。そのため国内外の高等教育界は、在籍時の学修成果の把握・可視化を共通の課題としているが、本大学では、一段大きな枠組みとして卒業後を含めた教育成果として捉え、在籍時の学修成果の修得、卒業段階での就職・進路決定、卒業後の「真に豊かな人生」の三つの段階・視点で、IR 機能を活用し、他大学のモデルとなる包括的な検証に取り組む。</p> <p>(1) 在籍時の学修成果の修得 本大学は、大学として「学部を区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」(「Kwansei コンピテンシー (仮称)」) を時代に即して新たに定め、各学部はそれを土台に「各分野における学位授与に必要な知識・技能」である DP (ディプロマポリシー) を策定する。この DP は、すべての学生が卒業必要単位数 (124 単位) を取得した段階で修得しているべき学修成果を表したものである。この基本原理を守るべく、学部は (a) DP の再確認 (b) DP と CP (カリキュラムポリシー) の整合 (c) シラバスの実質化 (d) シラバスに沿った成績評価 (e) DP と AP (アドミッションポリシー) の連動、を厳格に運用する。</p> <p>関西学院大学はこうした学部による三つのポリシーに基づく教学マネジメントを統括し、大学全体の内部質保証を推進することで、卒業する全ての学生の質を保証する。</p> <p>また、本大学は多くの学生が、国際ボランティア活動や教職課程プログラム (正課)、スポーツ・文化活動など多様な課外活動に取り組んでおり、それらの学生は付加的な能力・資質を身に付けている。これを「付加的な学修成果」とし、在学時、就職時、卒業後の検証データ等の分析によって把握・可視化することに取り組む。</p> <p>(2) 卒業段階での就職・進路決定 学修成果の修得を検証する方法については、世界の高等教育界でも前述 (1) のように教育プロセスを評価する手法が中心であるが、学修成果そのものを評価する方策として (特に汎用的能力・資質について)、本大学は、企業の人材採用の結果など就職・進路に関する指標を重視する。従来から活用している就職率や内定企業への満足度等に加えて、他大学との比較が可能な有名 400 社実就職率や、各学部が人材育成の目標に即して独自に定めた就職・進路の指標等を活用する。</p> <p>(3) 卒業後の「真に豊かな人生」 大学教育は、卒業後の長い人生にわたって効果・影響を及ぼすものであり、教育成果の検証においては卒業生を追跡調査して「真に豊かな人生」を送っているかといった長期的な視点を組み込む。調査項目には、キリスト教主義教育の観点からスクールモットー “Mastery for Service” の日常生活での浸透度、米国での先進事例を参考にした「総合的な人生の豊かさ」(Well-being)、仕事への意欲の高さ (Workplace Engagement)、汎用的能力の獲得状況、所得、役職などを組み込み、IR 機能を活用して在学時のデータと結びつけて分析し、長期の PDCA サイクルを確立する。また、上記の調査は日本の社会および高等教育界においても非常に高い公益性を持つことから本大学の個性を生かした代表的研究に育てるべく長期にわたって取り組むこととする。</p> <p>【フェーズ I の Total Review】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Kwansei コンピテンシー」の策定、卒業後 56 年目までの卒業生調査、卒業時調査に加え、IR データベースの整備も進み、教育の成果検証を行う素地は概ね整ってきた。 ・2019 年度に策定した「Kwansei コンピテンシー」を活用し、新入生調査と卒業時調査において、学生の成長感を測定・検証することで、在学時における学修成果を把握する取組が必要。 ・上記を含め、学生の学修成果・履歴を把握・評価する仕組み構築へと進む必要があり、データを統合的に分析し、各学部・研究科等にフィードバックし、EBM (Evidence-based Management) な教学マネジメントにつなげる必要がある。 ・上記に加え、卒業生調査を卒業後 56 年目まで延長することで、「真に豊かな人生」を送るためには在学時にどのような学修・体験等が必要となるか、継続的に測り続ける必要がある。 <p>【フェーズ II に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生／卒業時調査による教育成果の長期的な分析 ・学生の学修履歴データの統合的な分析 ・EBM (Evidence-based Management) による教学マネジメントの推進 ・スタディスキル等知識修得型授業のオンデマンド化の推進 ・カリキュラムの体系化による提供科目の削減 (選択と集中) ・「学修成果の可視化」方策の検討 (ルーブリック開発／ポートフォリオを活用した DP 達成度の可視化、コンピテンシーと科目の紐づけ等) 		

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年8月25日

テーマ1- (1) 「教育の長期的成果の検証、学修成果を把握・評価する仕組みの構築」

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	総合企画部長 小野 宏 (総合企画部)
-----------------------	---------------------------

指標 1-1

指標	内容					
指標名	DP到達度測定の有無					
定義・算式	授業調査等でのディプロマポリシー到達度の測定状況					
現状値 (指標設定時)	測定済み(学修行動と授業に関する調査:問5)(以下は参考値) 4.18(2017)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	実施		実施		実施	
実績値	2019年度	実施	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 1-2

指標	内容					
指標名	Kwansei コンピテンシー到達度測定の有無					
定義・算式	卒業生調査等における「Kwansei コンピテンシー」到達度の測定状況					
現状値 (指標設定時)	未測定(今後測定)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	実施		実施		実施	
実績値	2019年度	実施	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 2

指標	内容					
指標名	就職力を表す新たな指標の開発状況					
定義・算式	学士(2)で設定した指標以外の新たな指標開発への取り組み状況					
現状値 (指標設定時)	未実施(今後実施)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	実施		実施		実施	
実績値	2019年度	未実施	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年8月25日

テーマ1- (1) 「教育の長期的成果の検証、学修成果を把握・評価する仕組みの構築」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)総合企画部長
小野 宏
(総合企画部)

指標3-1

指標	内容					
指標名	スクールモットーの浸透度測定の有無					
定義・算式	IR 卒業生・卒業一年目調査における設問「あなたは、スクールモットーをどの程度意識していますか」での測定状況（2019年度調査より「常に意識している」「ときどき意識している」と回答した比率）					
現状値 (指標設定時)	測定済み（以下は参考値） ・卒業1年目調査 18.1 (2016) ・卒業生調査 21.6(1999)、22.8(2005)、24.7(2011)					
目標値	フェーズ1 終了時（2021年度）		フェーズ2 終了時（2024年度）		フェーズ3 終了時（2027年度）	
	実施		実施		実施	
実績値	2019年度	実施 (55.2)	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標3-2

指標	内容					
指標名	スクールモットーの実践度測定の有無					
定義・算式	IR 卒業生調査等における設問でのスクールモットーの実践状況に関する測定状況					
現状値 (指標設定時)	未測定（今後実施）					
目標値	フェーズ1 終了時（2021年度）		フェーズ2 終了時（2024年度）		フェーズ3 終了時（2027年度）	
	-		-		-	
実績値	2019年度	実施	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標3-3

指標	内容					
指標名	Well-being 度（QOL 度）測定の有無					
定義・算式	IR 卒業生調査等における設問「現在の自分を取り巻く環境」での Well-being 度（QOL 度）の測定状況					
現状値 (指標設定時)	測定済み（以下は参考値） ・IR 卒業生調査 83.2 (2017)					
目標値	フェーズ1 終了時（2021年度）		フェーズ2 終了時（2024年度）		フェーズ3 終了時（2027年度）	
	実施		実施		実施	
実績値	2019年度	実施 (79.9)	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年8月25日

テーマ1-(1)「教育の長期的成果の検証、学修成果を把握・評価する仕組みの構築」

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	総合企画部長 小野 宏 (総合企画部)
-----------------------	---------------------------

指標 3-4

指標	内容					
指標名	社会での活躍度測定の有無（満足度、年収、役職）					
定義・算式	IR 卒業生調査等における社会での活躍度（満足度、年収、役職）の測定状況					
現状値 (指標設定時)	測定済み（以下は参考値） ・ IR 卒業生調査 42.3 (2017)					
目標値	フェーズ1 終了時（2021年度）		フェーズ2 終了時（2024年度）		フェーズ3 終了時（2027年度）	
	実施		実施		実施	
実績値	2019年度	実施 (44.8)	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 4

指標	内容					
指標名	学部・研究科での3つのポリシーに基づく教学マネジメント推進の取り組みの有無					
定義・算式	学部・研究科の3ポリシーに基づく教学マネジメント推進の取り組み状況					
現状値 (指標設定時)	未測定（今後実施）					
目標値	フェーズ1 終了時（2021年度）		フェーズ2 終了時（2024年度）		フェーズ3 終了時（2027年度）	
	全学部・研究科にて実施		全学部・研究科にて実施		全学部・研究科にて実施	
実績値	2019年度	全学部・研究科にて 実施	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年8月25日

テーマ1- (1) 「教育の長期的成果の検証、学修成果を把握・評価する仕組みの構築」

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	総合企画部長 小野 宏 (総合企画部)
-----------------------	---------------------------

2. 実施計画ロードマップ

実施計画	担当部署	学部・研究科での取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① 「Kwansei コンピテンシー」の策定と運用	総合企画部 教務機構	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)	3年間			3年間			3年間		
② 三つのポリシーに基づく教学マネジメントの推進 (3ポリシー見直し・検証、カリキュラム見直し・拡充、カリキュラムマップの整備)	教務機構	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)	3年間			3年間			3年間		
③ 質の高い就労を示す新たな指標の開発	キャリアセンター	必要なし	3年間			3年間			3年間		
④ 卒業生/卒業時調査の企画・実施	高等教育推進センター	必要なし	2018年より3年間			3年間			3年間		
⑤ (SGU4-1) 国際通用性のある教育の質保証システムの構築	高等教育推進センター (TF 質保証)	必要なし	3年間			3年間			3年間		
⑥		必要の有無を選択ください。									
⑦		必要の有無を選択ください。									

【備考欄】

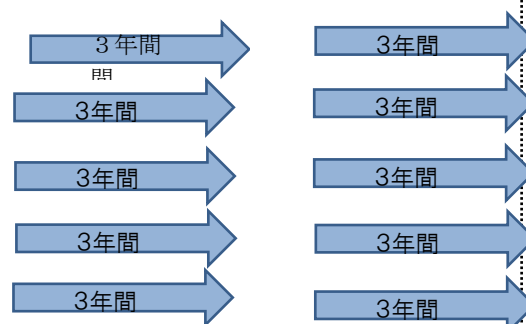
③については、「海外売上高比率」が「グローバル企業への輩出率」の算出の基礎データ候補として適切(有力)だと考えるが、現時点では本数値を公表している企業が少ない(日経 NEEDS Financial Quest: 上場企業の約34%)ため、全就職者数に占める輩出率を算定することができない。

については、Interbrand社が発表する「海外売上高比率30%以上」を対象とした”Japan’s Best Global Brands Top40”企業への輩出数/率を暫定的に指標とし、当面は参照することとする。

※想定される実施計画の例示

- ① 三つのポリシーに基づく教学マネジメントの推進
- ② 就職・進路決定に関する指標の確立
- ③ 教育成果の観点から卒業生調査の進化(研究ブランドへの進化)
- ④ 卒業時調査の実施
- ⑤ **【DX関連】(オンライン/リアル授業の融合による)カリキュラムの体系化、提供科目の削減による「選択と集中」**
- ⑥ **【DX関連】学生の学修履歴データの活用**
- ⑦ **【DX関連】コンピテンシーを獲得する仕組みの設計・実装**
- ⑧
- ⑨

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2020年8月25日

テーマ 1- (1) 「教育の長期的成果の検証、学修成果を把握・評価する仕組みの構築」

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	総合企画部長 小野 宏 (総合企画部)
-----------------------	---------------------------

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	2019年度中に各実施計画の具体化が概ね完了。卒業生／卒業時調査の企画・実施についても全体設計見直しが完了し、卒業後56年目までに拡大した調査を実施。今後は、内容、実施頻度等の見直しが必要。2020年度は「国際通用性のある教育の質保証システムの構築」に係る国際質保証シンポジウムの開催予定年度となっており、内容、実施時期等の調整が今後必要。
2020年度	
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2027年度	